

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 773 号 令和 7 年10月

目次

○お知らせ 本会主催講習会の開催について	1
・令和7年度中国地区産業動物講習会	
・第1回小動物講習会	
○令和7年度災害時動物救護対策委員会開催報告（常務理事）	2
○令和7年度山口市畜産共進会和牛共進会開催される（山口支部 藤井満貴支部長）	2
○新入会員紹介	3
・徳山支部 矢田大輝先生	
・長北支部 繁永智里先生	
○リレー随筆（岩柳支部 上野佳子先生）	4
○WVAC & AVMA 2025 ワシントン大会 参加報告（徳山支部 白永伸行先生）	5
○大阪関西万博に行ってみました！（徳山支部 木原一郎先生）	8
○ガジャ・マダ大学、アイルランガ大学を訪問して（2／2報）（岩柳支部 三好雅和先生）	8
○麻薬免許証をお持ちの方へ～手続きの御案内～（山口県業務課）	11
○山口県獣医師会ホームページについて（常務理事）	12
○事務局だより	12
○令和7年度中国地区産業動物講習会（公開講座）参加者募集チラシ	13

お知らせ

本会主催講習会の開催について

下記のとおり開催します。皆様の参加をお待ちしています。

○令和7年度中国地区産業動物講習会（公開講座）

- 1 開催日時：令和7年11月8日(土)13時30分～16時
- 2 開催場所：山口グランドホテル 2階 鳳凰（山口市小郡黄金町）
- 3 演 題：ウシのクロストリジウム感染症戦略
- 4 講 師：株式会社益田大動物診療所 加藤圭介 先生
- 5 参加費：無 料
- 6 参加申込：10月24日(金)までに、本会事務局宛に申し込んでください。

○令和7年度第1回小動物講習会

- 1 開催日時：令和7年11月16日(日)10時～16時
- 2 開催場所：YMfg維新セミナーパーク 一般研修棟1階 102号室（山口市秋穂二島）
- 3 演 題：①飼い主とペットが共に災害を乗り越えるために ～動物病院で伝えたいこと～
②災害に強い病院を目指そう ～今の備えで大丈夫ですか～
- 4 講 師：大阪府獣医師会災害等動物救護対策委員会委員・大下動物病院 院長 大下 勲 先生
- 5 参加費：本会会員は無料。それ以外は次のとおり参加費を徴収します。
学生：千円、愛玩動物看護師等：2千円、その他(一般)：3千円
- 6 参加申込：11月5日(水)までに、本会事務局に申し込んでください。

◆昼休憩の時間にランチョンセミナーを開催する予定

令和7年度災害時動物救護対策委員会開催報告

常務理事 酒 井 理

令和7年9月25日(木)午後1時30分から、県獣医師会館2階会議室において、令和7年度災害時動物救護対策委員会が開催されました。

中村 滋会長からの、会務運営への協力・支援に対する謝辞等の挨拶の後、次の6件の議題について、協議していただきました。

議題1 委員長の選任について

議題2 「下関市動物救護本部設置要綱」及び

「下関市動物救護活動実施要領」について

議題3 「山口県獣医師会災害時動物救護実施要領」の一部改正について

議題4 「山口県被災動物救護実施要領」に基づく取組について

議題5 ペットとの同行避難訓練について

議題6 災害時動物救護に関する講習会の開催について

議題1では、部会・委員会規程に基き、山口大学支部の馬場健司委員が委員長に選任されました。

議題2では、本年4月、下関市が定めた災害時動物救護に関する規程を説明しました。下関市の規程は、県と同様に、下関市内で災害が発生し、下関市災害対策本部が設置された際に、下関市動物救護本部を設置することとされています。

本会に対しては、下関市動物愛護管理センターで対

応が困難な場合の「負傷動物の治療」及び「飼い主からの一時預かり」についての協力を求めています。

また、避難所運営期以降は、避難所等におけるペットの健康管理相談、巡回診療等の健康管理支援への協力を求めています。

議題3では、本会の災害時動物救護実施要領に、下関市の規程を反映させるための、要領の一部改正について了承を得ました。

議題4では、県生活衛生課の木村雅美委員から、「山口県被災動物救護実施要領」に基づく取組について説明を受けました。

議題5では、県生活衛生課から、県、市町と本会とで、毎年実施されている「ペットとの同行避難訓練」の実施状況について、説明を受けました。

議題6では、今年度本会が開催する災害時の動物救護に関する次の2件の講習会を紹介しました。

①令和7年度市民公開講座（獣医公衆衛生講習会）

・日時：10月18日（土）13時30分～15時30分

・場所：YMfg維新セミナーパーク

②令和7年度第1回小動物講習会

・日時：11月16日（日）10時～16時

・場所：YMfg維新セミナーパーク

議題3の本会の災害時動物救護実施要領の一部改正については、次回の理事会に諮ることとします。

令和7年度山口市畜産共進会和牛共進会開催される

山口支部長 藤 井 満 貴

令和7年8月21日、猛暑の中、山口中央家畜市場において表記の共進会が盛大に開催されました。以前は阿東徳佐の旧徳佐家畜市場での開催でしたが、今年は山口市嘉川の山口中央家畜市場での2回目の開催でした。

若牛1区4頭、同2区3頭、同3区4頭の計11頭の出品があり、山口農林水産事務所畜産部の稲吉洋裕畜産振興課長を審査員長に4名の審査員で慎重審査がなされた結果、1区は阿東の嘉年高原ファームさんの「ばるん」号を1席に、阿東の(有)三宅牧場さんの「せりか」号を2席に、2区は同じく阿東の(有)三宅牧場さんの「ひばり」号を1席に、3区は阿東のふるさと振興公社さんの「りゅうこ」号を1席にと、それぞれ優等賞に選ばれ、最後に優等賞の中から阿東の(有)三宅牧場さんの「ひばり」号がグランドチャンピオンに選定されました。

また、出席者有志等による家畜審査競技も行われ、山口農高の生徒さんなど多数の参加者により、3頭の出品牛を対象に審査競技があり成績上位者には賞状が授与されました。

褒章授与式では、各団体から賞状や選賞状と副賞

が授与され、当会からは若牛1区1席となった嘉年高原ファームさん「ばるん号」に、山口支部長から、中村 滋会長の選賞状と副賞を授与しました。

今回の上位入賞牛は11月に開催予定の山口県畜産共進会に出品されることとなります。



グランドチャンピオンとなった「ひばり号」
(有限会社三宅牧場)

新入会員紹介



はじめまして。このたび山口県獣医師会へ入会させていただきました、矢田大輝(やだひろあき)と申します。現在、周南市にございますシラナガ動物病院にて勤務しております。今年4月より獣医師として臨床の現場に立たせていただき、半年が過ぎましたが、まだまだ日々新しい発見と学びの連続であり、緊張感とやりがいを強く感じております。

私は三重県四日市市の出身で、酪農学園大学にて獣医学を学びました。在学中は獣医麻酔学ユニットに所属し、麻酔管理・血圧対応・疼痛管理など、獣医療における基礎でありながら奥深い分野に取り組んでまいりました。特に麻酔下での動物たちの安全を守ることの重要性や、適切な疼痛管理が動物福祉に直結するという点を現場で学ぶことができ、この経験は大きな糧となっております。今後も現場でその知識を少しずつ活かしつつ、さらに深めていきたいと考えています。

大学卒業後、地元に戻る選択肢もありましたが、あえて山口の地へ来ることを決めました。それは、自分の視野を広げ、異なる地域や環境に身を置くこと

徳山支部 矢 田 大 輝
(シラナガ動物病院)

で、小動物臨床の基盤をよりしっかりと学びたいと考えたからです。当初はどこで研鑽を積みばよいのか迷っておりましたが、大学時代の恩師、そして両親の助言を受け、ご縁あってシラナガ動物病院を紹介していただきました。院長先生をはじめとするスタッフの皆様の温かい指導に支えられながら、学びと経験を重ねております。

プライベートでは、まだ慣れ親しんでいない山口の土地勘を養うためにドライブをすることが多く、新しい景色に出会う楽しみを感じています。また、趣味でサバイバルゲームをしており、休日には体を動かしてリフレッシュしております。自宅では使用した装備の整備やゲームをしながら過ごし、よい気分転換となっています。こうした時間も、日々の臨床に向き合う活力の源になっていると感じています。

獣医師としてまだ駆け出しの身ではありますが、地域の皆様や動物たちに安心して任せていただける存在となることを目標とし、日々精進してまいります。獣医師会の皆様方には今後多くのご指導・ご助言をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

はじめまして



はじめまして。この度山口県獣医師会に入会いたしました、繁永と申します。今年3月

に山口大学を卒業し、4月から長門農林水産事務所畜産部でお世話になっています。

出身は山口市で、大学に入るまで牛はおろか犬猫にも触ったことがなく、動物とは縁のない暮らしをしてきました。人獣共通感染症やウイルス学に興味があり、縁あって獣医師の仕事について学ぶ機会があったため、受験を決意しました。大学時代は微生物学研究室に所属し、主にエキゾチックアニマルのウイルス疫学調査を行っていました。

長北支部 繁 永 智 里
(長門農林水産事務所畜産部)

配属は防疫課か畜試だろうと勝手に思い込んでいたため、畜産振興課への配属は全く想定外の出来事でした。想像していた未来とのギャップに驚いたり、実験室が恋しくなったりすることもあります。今まで知らなかった畜産の裏方の世界に日々刺激を受けています。

趣味は楽器演奏で、中学生の頃からチェロを続けています。現在もオーケストラや室内楽の市民団体を掛け持ちしており、週末は練習で埋め尽くされています。

勉強不足で至らない点多々ありますが、地域に貢献できる人材になれるよう精進してまいります。何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

リレー随筆

岩柳支部 上野佳子
(岩国健康福祉センター食肉検査課)

岩国健康福祉センターの上野です。細々と続けているキャンプについて書こうと思います。

子供の頃のキャンプといえば、学校や子供会の野外活動でした。山や海に強制連行され、登山、カッター、座禅、飯盒炊飯という軍隊のような生活を強いられたものです。飯盒炊飯の火起こし用に与えられるのは、各班新聞紙1枚とマッチ3本。火が起こせなかった班は、ご飯抜き!!という謎ルールも。当時のキャンプは、まさに野営。今のようなレジャー要素は1ミリもなく、私には、ただただ苦行でした。

そんな私にとって、大学時代に訪れた第1次キャンプブームは、着火剤という便利なもので火を起こし、好きなだけ肉を焼き、鍋をつつき、お酒を飲み、おしゃべりできる、とても魅力的なものでした。ここから、一気にキャンプにはまっていきます。

その後、子供連れのにぎやかで慌ただしいキャンプ時代を経て、今は、炎を眺めたいなあ・・・と思った時にキャンプをします。

焚き火が目的なので、遠出はせず、思い立った時に近場のキャンプ場に出かけます。

キャンプ場についたら、まず、テントの設営です。他のキャンパーの気配を感じずに焚き火に没頭したいので、焚き火台を囲むように、テント、タープ、車を配置します（もちろん、他の方のテントサイトや木々に火の粉等が飛ばないかも考えます。）。

焚き火を始めた後は、極力何もしたくないので、お酒、食べ物、ランプなど必要なものを椅子の周りに整えます。トイレに行くのも面倒なので、お酒はビールではなく、もっぱら自家製梅酒です。蒸留酒はトイレが近くなりにくいと聞いてから、キャンプのために、焼酎に梅を漬けています。

次は、焚き付け用の小枝集めです。適当な大きさのものを見繕いながら小枝を集める。ただそれだけのシンプルな作業です。遠くにキャンプ場のざわめきを感じながら、静かな林の中で作業に没頭していると、自分だけが異世界に存在しているような不思議

な感覚になっていきます。この時間も良いものです。

そして、いよいよ火起こしです。集めてきた小枝に火をつけるとパチパチという音と良い香りがしてきます。少しずつ太い枝を入れながら、安定するまで火を育てます。ここまでくると、もう大丈夫。リラックスタイムの始まりです。

薪がパチパチとはぜる音や周囲の木々の葉が風でこすれる音を聞きながら、炎が揺らぐのを眺めていると、心が静かになり、あっという間に時間がたっていきます。時々、薪を足したり、向きを変えたりしながら、お酒を飲む時間は、ゆったりとした贅沢な時間です。

やがて、燃えた薪が熾火（「おきび」と読みます。）になります。炎を眺めるのも良いですが、チラチラと赤く輝く熾火も幻想的できれいです。時間の経過とともに、薪が形を崩しながら白くなり、火が消え、さらさらとした灰になります。焚き火時間の終了です。満たされた気持ちで寝袋にもぐりこみます。

ちょうど今頃から初冬にかけてが、空気が凜とし、星空もきれいな良い季節です。今年は何回行けるかなあ。楽しみです。



今回は、西部家畜保健衛生所の引田久美子さんへお願いします。同じ寮で大学生活をスタートし、気がつけばウン十年の付き合いになりました。

WVAC & AVMA 2025 ワシントン大会 参加報告

徳山支部 白 永 伸 行

(シラナガ動物病院)

2025年夏、米国ワシントンD.C.において World Veterinary Association Congress (WVAC) と American Veterinary Medical Association Annual Convention (AVMA) が合同開催されました。世界各国から獣医師が一堂に会し、臨床獣医学から公衆衛生、獣医師倫理、教育、さらには最新の産業動向に至るまで幅広い議論と交流が行われました。

私が参加するきっかけは、蔵内勇夫日本獣医師会会長が世界獣医学会議会長を務めており、来年度のWVACは日本がホスト国になっているため、その視察ツアーに誘われたのです。

WVACが行われる7月18-20日の3日間参加しましたので、その概要を報告いたします。

《WVAC（世界獣医師会議）》

WVACでは「One Health」をテーマに、人医・獣医・環境分野の連携を強調したセッションが展開されました。特に印象的であったのは以下の点です。

1) 新興感染症・人獣共通感染症への国際的対応
SFTSや高病原性インフルエンザ、狂犬病といった重要課題に対し、各国の取り組みや連携体制が報告されました。

2) 獣医師倫理とウェルビーイング

過重労働やメンタルヘルス支援、社会的信頼を高めるための倫理教育など、獣医師自身の持続可能性をいかに確保するかが議論されました。

《AVMA（米国獣医師会年次大会）》

AVMA Conventionでは、臨床現場に直結する発表が数多く見られました。以下に箇条書きにしておきます。

小動物分野では

1) FIP（猫伝染性腹膜炎）の新規治療薬の臨床報告：米国ではGS製剤を第1選択としてモルヌピラビルは条件付き使用。これらの薬剤は臨床治験が完全に終了していないものの、FIP猫のため、そして偽ドラッグ対策のため緊急承認薬であることが強調されていた

2) 低侵襲外科手技や術後管理の最新知見

3) AIやビッグデータを活用した診断支援ツール

産業動物分野では

1) 抗菌薬使用規制と代替策、ワクチンプログラ

ムの導入

2) 酪農・畜産における持続可能性と環境問題への対応

3) 豚熱・鳥インフルエンザ等の危機管理体制

馬医療分野では

1) 運動器疾患に対する理学療法・再生医療の応用

2) 国際競技会に伴う感染症対策と検疫強化

野生動物・動物園医学では

1) 保全活動における獣医師の役割

2) 野生動物由来人獣共通感染症の拡散防止策

公衆衛生分野（One Health）では

1) 薬剤耐性菌（AMR）対策の国際的枠組み

2) 食品安全・動物由来食品のリスク評価

3) 災害時における獣医師の役割と地域社会への貢献

教育・倫理セッションでは

1) 学生教育へのAI導入や国際的な教育比較

2) 若手獣医師のキャリア支援とウェルビーイング向上

学会の状況

参加者はぶら下げる名札にQRが割り与えられていて、入室や企業展示で読み取られて、あとはメールで資料配布や取引、商談などが行われるという大変利便性が高い方式を取られていました。

会場内の雰囲気はさすが米国というか、全ての職域を網羅した国際学会というところでした。企業展示の豪華さでいうと、展示ホールは非常に充実しており、325社を超える企業が出展しました。最新機器や医薬品、教育資材が紹介され、来場者の97%以上が訪問するなど大きな盛り上がりを見せました。中でも特に存在感を示したのは、Elanco Pet Healthです。同社は「Best Interactive Exhibit」賞を受賞し、来場者が実際に製品やサービスを体験できる工夫により、会場で最も人気のあるブースの一つとなりました。

また、飲食の充実ぶりがすごく、コーヒーなどのフリードリンクにアメリカサイズのマグカップを渡されて、制限がかかることはありませんでした。またサラダボール、ハンバーガーも定時に給仕されて、日本人の私たちは展示でいただく量で十分でした。また企業ブースによってはバーカウンターを作って

アルコールの提供もされていました。

もう一つの特徴は獣医師の転職人気です。VCA、PetVet Care Centers、National Veterinary Associates、Community Veterinary Partners、Bond Vetといった大手動物病院グループも大規模ブースを展開。学生や若手獣医師がキャリアチェンジや転職を意識して訪問する姿が目立ち、採用相談や資料請求の列ができるなど「転職を睨んで最も人気を集めたコーナー」と言える状況でした。

会場建築と耐震性の違い

会場はワシントンD.C.市内の国際会議のコンベンションセンターとして名高いWalter E. Washington Convention Centerで行われました。建物は年季が入っておりますが、天井の高い広大なホールと分科会用の会議室を備え、数千人を同時に収容できる設計でした。展示と講演の動線がシームレスで利便性に優れた施設でしたが、とにかく目立ったのは、日本のような建物は耐震性のため窓やコンクリートがある程度画一的ですが、地震が少ないためややソリッドな感じがして、耐震設計はそれほど重視されていない印象を受けました。これはアメリカ東海岸の地震発生が極めて少ない地域特性によるものです。対照的に、来年日本で使用される会場は最新の耐震基準を満たしており、「安心・安全」という日本開催ならではの強みを改めて感じました。

参加人数と国際交流

今回の合同学会には、総計7,800名を超える参加者が集まりました。獣医師、動物看護師、学生、研究者など幅広い層が参加し、国際色豊かな交流の場となりました。廊下や休憩スペースでも活発に名刺交換や情報共有が行われ、国境を越えたネットワークの拡大を肌で感じることができました。

その中で、次年度東京大会のブースも東京都が運営しており、やはり寿司と天ぷら、浅草、そして桜の季節が関心を集めており、用意した案内もすぐなくなったという盛況ぶりだった模様でした。

クロージング・セレモニーと特別ゲスト

大会のフィナーレを飾ったのは、ワシントンD.C.のウォーターフロント「The Wharf」で行われたクロージング・セレモニーでした。

アメリカの人気シンガーソングライター メーガン・トレイナー（Meghan Trainor）が登場し、代表曲「All About That Bass」をはじめとする楽曲を熱唱。

グラミー賞受賞歴を誇る彼女の明るいステージは会場を大いに盛り上げました。スイーツや花火の演出もあり、祝祭的な雰囲気の中で大会の幕が閉じました。

さらにこの場には小池百合子東京都知事も出席し、来年の日本開催に向けてスピーチを行いました。知事は、

- ・「東京は安全で活気ある国際都市であり、世界中の獣医師の皆さまを心よりお迎えしたい」
- ・「One Healthの理念のもと、日本から世界へ新しい知見と協力を発信していく」

と述べ、参加者に強い印象を残しました。ワシントンから日本へと開催のバトンが正式に引き継がれた象徴的な瞬間でした。

さらに特筆すべきは、WVAC会長を日本獣医師会会長の蔵内勇夫先生が務められていることです。クロージングにおいても、来年の開催地として日本が正式に紹介され、蔵内会長のリーダーシップのもと日本開催へと継承されることが強調されました。日本の獣医学が世界の舞台で存在感を示す大きな契機となるでしょう。

まとめ

今回の学会参加を通じて、

- 1 世界的に「感染症対策」と「獣医師のウェルビーイング」が重視されていること
- 2 臨床現場ではAIや新規治療薬など革新的アプローチが急速に普及していること
- 3 来年の日本開催に向け、国際舞台で日本の役割と期待が一層高まっていることを実感しました。
- 4 課題として来年度の日本での世界大会の参加費が国内参加者に受け入れられるか（今回の私の参加費は早割りでUS\$595（約92,230円）でしたが、日本大会はこの額ではないと聞いています。）

国際学会への参加は単なる情報収集にとどまらず、獣医療の未来を多角的に見直す契機となります。特に来年は日本でWVACが開催されます。これは日本の獣医師にとって、世界の潮流を直接体験し、国内外の同業者と交流を深めるまたとない機会です。WVAC日本大会は令和7年度日本獣医師会年次大会と共催という形で4月中旬に行われます。この大会で日本の獣医療の存在感を世界に示せればと願っています。

次号は「ワシントンD.C.に行ってきました2025夏」という学会以外のお話をさせていただきます。



WVACが共催するAVMA（世界獣医師大会）年次大会



クロージングライブのメガン・トレイナー
(撮影フリー)



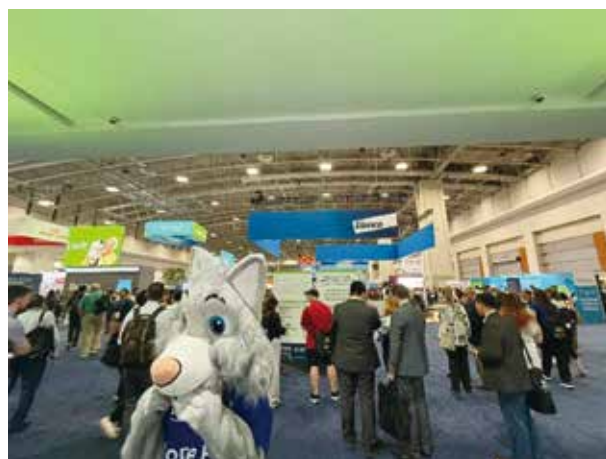
挨拶を終えた小池百合子東京都知事を囲んで。参議院選挙終了後飛んできてくれたほど、年次大会の成功とワンヘルスや獣医職との関わりを大切にしたいとお聞きした。



次年度開催地東京ブース



クロージング・セレモニーを終えた藏内勇夫会長



広大な展示会場

大阪関西万博に行ってみました！

徳山支部 木 原 一 郎

(周南市徳山動物園)

何かと話題になっている大阪関西万博。私は動物園リニューアルの設計も担当しているので、展示の勉強を兼ねて、これまでに5月、7月、9月と三度訪れる機会を得ました。

今回の万博のメインテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。未来を考える上で、「カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量の実質ゼロ）」や「気候変動」への対応は避けて通れない課題です。

私の仕事柄、小学生から高校生まで幅広い年代に「環境」について話題を提供することがあります。先日県庁の事業で「次世代環境リーダー養成講座」に参加し、高校生や大学生と意見を交わす機会がありました。会場には多くの専門家も集まり、現代社会が抱える「気候変動」の実情やその影響について、一日を通して議論が交わされました。

そこで改めて考えさせられたのは、「2050年カーボンニュートラル」という目標を若い世代がどのように受け止めているのか、ということです。日本は2013年比で46%削減という中期目標を掲げていますが、現状は27%削減にとどまっています。この数字だけを見れば、目標はまだ遠いように思えます。ある調査によれば、「カーボンニュートラルへの取り組みが自分にとってどのような意味を持つか」という問いに対し、日本の若者の75%はマイナスに、海外の若者の75%はプラスに捉えているという結果が出ています。彼らの責任ではないのに、大きな宿題を背負わせてしまうことに、少し申し訳ない気持ちになる場面もありました。

さて、万博会場の話に戻ります。G7各国のパビリオンでは、この「カーボンニュートラル」実現に向

けた具体的なロードマップを提示していました。要約すると、「次々に実用化される新技術によって地球温暖化は克服可能であり、人々はより良い暮らしを享受できるようになる。未来はもう目の前にある」というものでした。

昭和初期、結核は致死率の高い恐ろしい病でしたが、医学の進歩によって現在では治療可能な疾患となりました。同じように、技術革新が進めば地球規模の課題である温暖化も人類が乗り越えられるのではないかと。そんなメッセージを感じる展示でした。もちろん実際には、これからの努力と行動が問われることには変わりはありませんが、少し前向きな気持ちで会場を後にしたのも事実です。

最後に、90分待ちで入館したアメリカ館で目にしたメッセージの一つ。「地球温暖化は必要だ」と語ったトランプ大統領の言葉とは対照的に、パビリオンでは「カーボンニュートラルへの挑戦」が強く打ち出されていました。その印象的な場面をご覧ください。



アメリカパビリオンでは「JOIN US!」のメッセージ

ガジャ・マダ大学、アイルランガ大学を訪問して（2／2報）

岩柳支部 三 好 雅 和

9月号会報（1／2報）からの続報です。グヌンキドル県の行政機関及び農場視察を終えた翌日、ガジャ・マダ大学獣医学部を視察しました。獣医学部の研究棟に隣接した畜舎には、プラナカン・オンゴレやバッファローの種雄牛候補、ホルスタイン種搾乳牛、山羊が飼養されていました（写真1）。山羊では、ザーネン種以外にEttawa Goat（インド原産）、Boer Goat（南アフリカ原産）といった品種も飼養されており、山羊が地域で大きな役割を担っている状況が伺われました。また、屋外のサル専用施設にミナミブタオザル（*Macaca nemestrina*）が飼養されていました。彼の部屋の前には「ARJUNA」という神話由来らしい「厳かな名札」が掛けてありました。サルには医学部の実験動物としての役割もある、とのことでした。私が敬意を表して「名前」を呼びかけましたが、全く相手にされず無

視されてしまいました。



（写真1）バッファロー、プラナカン・オンゴレの種雄牛候補たち。

一方、珍しい鶏として「アヤム・チュamani (ayam cemani)」という真っ黒な鶏がいました(写真2)。遠目では「黒柏に似た鶏がいるのか」と思いましたが、近くで見ると全く異なった体型で「まさしく野鶏」といった感じでした。説明によるとインドネシア原産の鶏であり、外見はすべて黒、さらに内臓、肉、骨まで黒ということでした。血液も黒(正確には濃い赤色らしい)であり、「ブラックマジック」にも使用する高価な鶏とも話してくれました。なお、1年10~20個くらいしか卵を産まない等の説明をしてくれました。帰国後、インターネットで調べると世界的にも有名な鶏であり、価格は1羽1億IDR(10万円)するようです。



(写真2) アヤム・チュamani

施設を視察後に学部長ほか幹部の方々を表敬訪問しました。写真3は学部長室前での記念撮影です。右手を胸に当てて人差し・親指で○を示すポーズを取るよう指示されましたが、これはガジャ・マダ大学を示すものだそうです。その後、イムロン博士の要請により、4年、5年生約20名の皆さんへ私の過去の経験、知見を約1時間30分ばかりお話をしました。「法定伝染病、届出伝染病、口蹄疫、HPAI、牛トレーサビリティ制度、和牛の繁殖、登録」といった内容について、スライドを用いて説明しました。要請が日本出国直前であったために資料の大半は日本語のままであり、私の「長州弁、poor English」に加え、イムロン博士の日本語・英語・インドネシア語通訳でどのくらい理解されているか不安でした。終了後、2名の女子学生から質問がありましたが、主旨として「2010年の宮崎県での口蹄疫では健康畜にワクチンを接種したのに何故殺処分したのか？」でした。回答として、「口蹄疫のワクチンではウイルスフリーにできない。宮崎の例では急激な感染拡大を抑えるために使用した。殺処分、埋却には大変な苦勞が必要であったこと、終息後には法律が改正され、衛生管理の徹底、早期通報の徹底や埋却地確保の責務が明確化された・・・等」をどうにか説明しました。また、「摘発・淘汰による清浄化は大変な作業。国によっては地理的、行政的、住民感情の面から難しいかもしれないが、長期的に見ると重要な防疫戦略。牛疫や天然痘の事例を考えてもらうと分かりやすいかもしれない。」と説明したところ、それなりに理解されたようでホッとしました。



(写真3) 左から獣医学部のウィダグドゥ副学部長、イムロン博士、筆者、兄会社の関係者、兄、アリス副学部長。「右手のポーズ」はガジャ・マダ大学を意味するそうです。



(写真4) 説明会を前に記念撮影。前列左からアリス副学部長、筆者、筆者の兄、イムロン博士。後列は学生の皆さん。女性の学生さんが多く、熱心に話を聞いてくれました。記念撮影では「右手のポーズ」がお約束です。



(写真5) 学生さんの質問への回答。イムロン博士による名通訳。

学生さんたちとの交流会を最後にジョグジャカルタ特別州での予定を終えました。その後、K A I (インドネシア国鉄)の特急で夕刻の田園風景を眺めながら4時間かけてスラバヤに向かいました。スラバヤ駅には21時に到着しました。駅前は乗降客で混雑していましたが、どうにかアイルランガ大学獣医学部のユヌス教授に会うことができました。教授とは初対面でしたが、宮崎大学に留学していた経験もあり日本語が堪能な上、私の恩師や同級生をよく知っており一気に会話が弾みました。大学はスラバヤ市内の街中にあり、近代的ながらもシックな一面を持つ立派な施設でした(写真6、7)。



(写真6) アイルランガ大学獣医学部
(スラバヤ市内)。



(写真7) アイルランガ大学獣医学部
(スラバヤ市内)。

スラバヤ市では日程の都合から現地視察ができなかったので、大学内の寄生虫研究室で教授から現地のお話を伺いましたが、以下が概要です。

- 水様性下痢、腹痛を起こす*Blastocystis spp.* がかなり検出されており、現在研究している。また、鳥のkokシジウムも多い。*Eimeria tenella*、*E. acervulina*、*E. maxima*が多いが、*E. necatrix*、*E. brunetti*も少なくない。寄生状況には地域差がかなりある。
- 乳用牛はホルスタイン種(トロピカルホルスタイン種ではなく通常のホルスタイン種)。ただし、乳量は日本に比べるとかなり少ない。肉用牛について、このあたりはリモジン種が多い(写真8)。肝蛭寄生は地域差があるが、少なくない。駆虫薬

として、ivomec Plusやニトロキシニルを使用している。

- 豚の飼養について、ジャワ島では少ないものの、バリ島、パプアインドネシアでは多い。
- 犬を食用にするところもある(串焼きスタイル)。食用ガエルの養殖場もあり、某国に輸出している。
- 日本住血吸虫症について、スラウェシ島中部のLindu湖、Napu渓谷、Bada渓谷周辺で発生しており、問題となっている。地元の人に、裸足で水の中に入らないよう指導するがなかなか受け入れてもらえない。「いい駆虫薬(プラジカンテル)があるから私は大丈夫!」と言う人がいるなど、課題が多い。なお、研究室のPCのインターネットで「甲府盆地を襲った恐怖の寄生物」という日本のホームページを見せたところ、腹部が膨満した患者の写真を見て「うーん、Snail fever!」という反応を見せていました。



(写真8) アイルランガ大学獣医学部の牛舎で飼養されているリモジン種の繁殖牛。鼻環はなく、鼻中隔に穴が開けられ細ロープが通してあります(ガジャ・マダ大学の牛、ジョグジャカルタ州の農場の牛、いずれも同様、そういえばタイでも同様でした)。日本語で声をかけましたが、よく反応してくれました。

日本住血吸虫症については、イムロン博士からも「スラウェシ島のLindu湖周辺が多発地帯であり、調査したところ野生のネズミでは90~100%、牛、馬、豚、バッファローでは10%程度の寄生を確認している。」という話も聞いており、過去の日本での状況を思い起こしました。前報に記載した記事「警告炭疽!」の件を含め、既に日本では過去の疾病となり教科書上にしか存在しなくなった疾病であっても、国外に出ると注意すべきものがまだまだ多くあることを改めて認識した視察になりました。また、今回の視察先はいずれも赤道付近にありましたが、あまり暑さは感じませんでした。ところが赤道から遠く離れた日本に帰国するや、酷暑でダウン。「どちらが赤道付近なのか?」という感じで、近年の環境変化を体で体感した旅ともなりました。

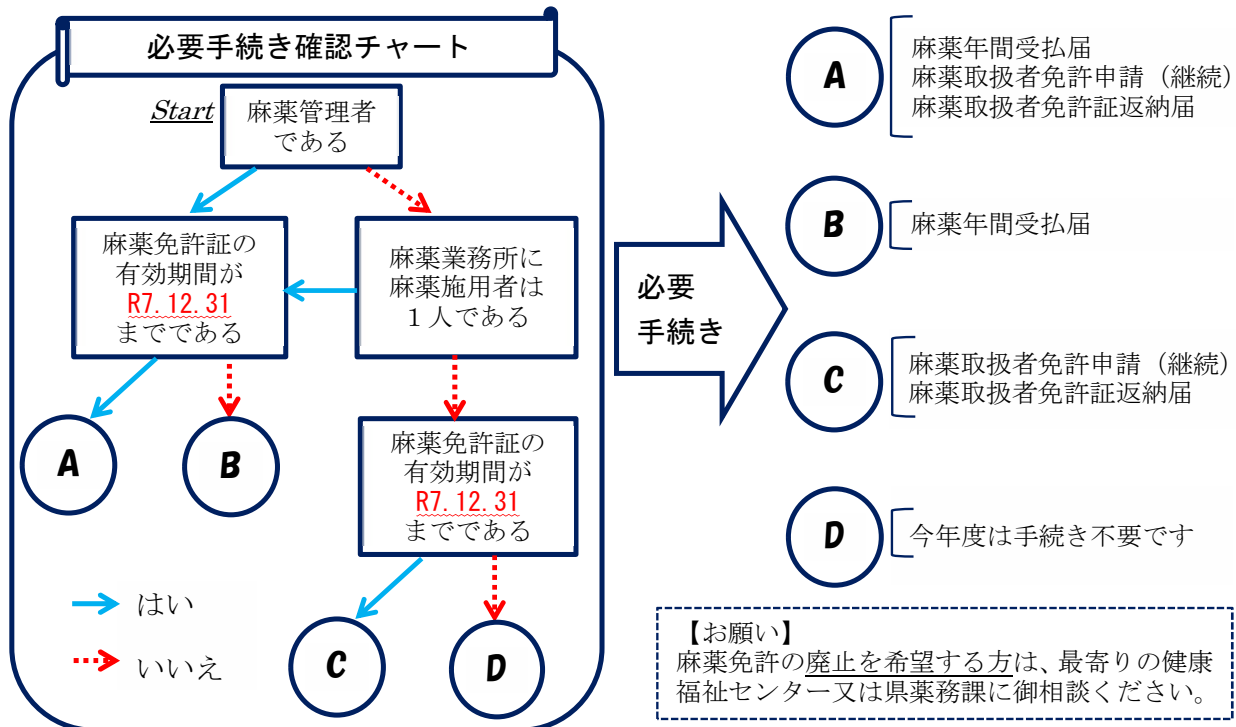
最後になりましたが、山口大学佐藤 宏先生、ガジャ・マダ大学のイムロン博士ほか皆さん、現地でサポートしてくれたポスドクの女学生さん、アイルランガ大学ユヌス教授に紙面を借りてあらためて感謝を申し上げます。

<麻薬管理者・施用者向け>

【重要】麻薬免許証をお持ちの方へ～手続きの御案内（山口県薬務課）～

麻薬取扱者は、10月から1月にかけて所定の手続きが必要となります。

必要な手続きは免許種別や免許取得年等によって異なります。以下のチャートを参照し、手続き漏れのないよう御確認をお願いします。



【各手続き詳細】

麻薬年間受払届	麻薬取扱者免許申請（継続）	麻薬取扱者免許証返納届
◆対象者 チャート中 A 、 B 該当者	◆対象者 チャート中 A 、 C 該当者	◆対象者 チャート中 A 、 C 該当者
◆提出物 ・麻薬年間受払届 2部 （正本1部、副本1部）	◆提出物 ・麻薬取扱者免許申請書 1部※ ・診断書（1ヵ月以内に作成されたもの）1部※ ・（変更時のみ）麻薬保管設備等図面 1部※ ・手数料（県証紙） 4,360円分 ※下関保健所への提出は2部（正副1部ずつ）	◆提出物 ・麻薬取扱者免許証返納届 1部※ ・有効期間が満了した麻薬免許証 1部※ ※下関保健所への提出は2部（正副1部ずつ）
◆提出期限 令和7年11月30日	◆提出目安時期 令和7年11月30日まで	◆提出期間 令和8年1月1日～15日 （年始は1月5日から開庁します）
◆概要 R6.10.1～R7.9.30に 交付した麻薬の数量等の届出		

【留意事項】

- 各様式は、山口県薬務課のHP又は最寄りの健康福祉センターで入手してください。山口県薬務課のHP内「麻薬関係手続きについて（既免許者向け）」のページには、記載例も掲載しています。（<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/48/101545.html>）
- 提出窓口及び新免許証受け取り窓口は、管轄の健康福祉センター又は下関市立下関保健所です。開庁時間（平日8:30～17:15（12月29日から1月3日までを除く））にお越しください。提出は郵送も可。
- 新免許証は **12月15日（月）以降に受け取りにお越しください。**ただし、御提出の遅れや不備事項があった場合には、新免許証のお渡しが遅くなることがあります。

※麻薬業務所が防府市内にある方へ
12月18日（木）13時～16時のみ、防府保健所での新免許証受け取りが可能です。防府保健所での受け取りを希望する場合は、麻薬取扱者免許申請書（継続）の余白部分にその旨を記載してください。

★お問い合わせ窓口★

各健康福祉センター（岩国、柳井、周南、山口、宇部、長門、萩）

※下関市内の事業者の方は県薬務課へお問い合わせください。

（詳細は右記QRコードをご参照ください。）



薬務課 HP

山口県獣医師会ホームページについて

常務理事 酒 井 理



山口県獣医師会では、国や県、日本獣医師会等からの様々な情報をホームページに掲載してお知らせしています。

上の図は、トップページの上段の画像です。

「獣医師会とは」、「主要事業」、「動物病院一覧」、「刊行物」、「会報」、「会員専用」のバナーを設けて、クリックするとそれぞれのページに移動します。

トップページには、「お知らせ（国や県の通知、関係団体からの情報）」、「学会・セミナー情報（獣医学に関係する学会や講習会等）」、「各種様式（会員異動届、SFTS検査依頼書等）」を掲載しています。

また、掲載依頼があった企業等のバナー広告を各ページに掲載しており、バナーをクリックすると企業等のページに移動します。

「獣医師会とは」のページでは、会長挨拶、組織図、役員・支部名簿、歴代役員等を紹介しています。

「主要事業」のページでは、本会の主な事業を紹介しています。

「動物病院一覧」のページでは、市町別の会員動物病院を紹介しており、動物病院のホームページにもリンクしています。

「刊行物」のページでは、本会が出版した印刷物を紹介しています。

「学術情報」のページには、「山口県獣医学会の演題と研究者（第1回～第56回）」、「第57回以降の山口県獣医学会講演抄録（第57回以降）」、「山口県獣医学雑誌」等を掲載しています。

「会報」のページには、第707号（令和2年4月）以降の本会会報を掲載しています。

「会員専用」のページには、「災害時動物救護」、「講習会や学会の映像スライド」、「SFTS」、「愛玩動物看護師」、「マイクロチップ」、「コロナ」、「狂犬病」、「小動物関連」、「産業動物関連」等に区分して、会員専用の情報を掲載しています。

特に「講習会や学会の映像スライド」には、近年主催した講習会や県獣医学会の映像を掲載していますので、業務の参考にしてください。

お知らせ

今後の主な行事(予定)

- | | | | |
|-----------|------------------------|--------|-------------------------|
| 10月1日 | ・山口大学動物慰霊祭（山口大学） | 11月6日 | ・第3回理事会（県獣会館） |
| 10月10日 | ・中国地区獣医師会連合会事務局会議（岡山市） | 11月8日 | ・中国地区産業動物講習会（山口グランドホテル） |
| 10月11～12日 | ・獣医学術中国地区学会（岡山市） | 11月14日 | ・全国獣医師会会長会議（東京都） |
| 10月15日 | ・岩国市和牛共進会（岩国市） | 11月15日 | ・動物感謝デー2025（東京都） |
| 10月18日 | ・市民公開講座（維新セミナーパーク） | 11月16日 | ・第1回小動物講習会（維新セミナーパーク） |
| 10月30日 | ・第1回支部長会議（県獣会館） | 11月30日 | ・時重初熊先生墓碑掃苔供養（周南市） |

事務局だより

- 9月5日 ・県庁支部研修会（セントコア山口）
 9月9日 ・令和7年度やまぐち高度衛生管理農場推進協議会（オンライン）
 9月18日 ・会報編集委員会（県獣会館）
 9月22日 ・山口県ホルスタイン共進会（山口中央家畜市場）

- 9月25日 ・第58回動物供養祭（周南市徳山動物園）
 9月25日 ・災害時動物救護対策委員会（県獣会館）
 11月25日 ・事業推進会議

次回編集委員会 10月21日(火) 13:30～

山口県獣医師会会報 第773号 令和7年10月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)
 電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554
 e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp
 http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊 川 剛
 発行責任者 中 村 滋
 印刷 コロニー印刷

令和7年度 中国地区産業動物講習会

参加無料

主催：(公社) 日本獣医師会・(公社) 山口県獣医師会

演題

ウシのクロストリジウム 感染症戦略

牛のクロストリジウム感染症に対して、益田大動物診療所でこれまでに取り組んでこられたことを中心にお話していただきます。
肥育牛については主に突然死を伴う壊死性腸炎の現場での対応、乳牛については出血性腸症候群の対策をテーマとします。

講師

かとう けいすけ
加藤圭介先生

(株) 益田大動物診療所 獣医師

日時

令和7年11月8日(土)
13時30分～16時

会場

山口グランドホテル2階 鳳凰 (山口市小郡黄金町)

定員

70名程度 ※お申し込みが定員を超える場合は、抽選とさせていただきます

参加費

無 料

申込方法

令和7年10月24日(金)までに、メール又はFAXに
次の事項を記入してお申し込みください。

- ①氏 名 ②住 所 (又は勤務先) ③郵便番号
④電話番号 (日中つながる番号) ⑤メールアドレス

申込み・問い合わせ先

公益社団法人山口獣医師会

〒754-0002 山口市小郡下郷1080-3

電 話：083-972-1174 (平日9～17時)

FAX：083-972-1554

ホームページ：http://www.yamaguchi-vet.or.jp/

メールアドレス：yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

